

Mercure des Arts 2018 年活動報告書



ご挨拶

1. [本誌の目指すもの——未来へ、そして「断片」でなく「思惟」へ](#)
2. [アクセス解析資料](#)
3. [第4回年間企画賞（2018年）](#)
4. [Mercure des Arts メンバー執筆陣による2018年自選ベストレビュー&エッセイ](#)
5. [創刊3周年特別企画「忘れがたい音楽体験」（レギュラー執筆陣）](#)
6. 記事一覧（2018/1/15～2018/12/15号）
 - ◎ [Select-Backstage-CD-Book-Pickup](#)
 - ◎ [Column](#)
 - ◎ [Concert Review](#)
7. 寄稿文と本誌評・記事セットリスト（2015/10/15 創刊号～2018/12/15号）
 - ◎ [Back Stage](#)
 - ◎ [五線紙のパンセ](#)

ご挨拶

平素より大変お世話になっております。

おかげさまで本誌も今年で3周年を迎えることができました。

2015年10月、メンバー5人で創刊、現在は関西方面も含め14人のレギュラー執筆陣となっております。さらに、本誌メッセージにご賛同いただく多くの方々からのご寄稿により、クラシック音楽はもとより、専門にとどまらない広範な批評的視点を提起しつつあると考えます。

この活動が、2017年10月、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業 WARP の収集対象に認定され、現在公開、逐次保存されていることを、改めて嬉しく思っております。

50年後、100年後の人々が今日の音楽界の動向をヴィヴィッドに読み取ることのできる貴重な資料となるに違いないと確信します。

これもひとえに皆様方のご助力の賜物と心より感謝申し上げます。

本誌は、批評という大きなバイアスのもとに、創生と享受の新たな回路を生むべく、『Back Stage』で各地のホール、オーケストラ、マネジメントの方々が企画公演への情熱を発信、『五線紙のパンセ』では、中堅若手作曲家の方々が創作への想いを発信、『コンサート・レビュー』では直裁かつ丁寧な評を月平均20本近く掲載、また海外を含む多彩なコラムと、それぞれが響き合い、照応しあうダイナミックな誌面作りを目指しております。

また毎年、優れた企画に贈る『年間企画賞』をレビュー担当のレギュラー執筆陣全員の投票により選出、選評とともに発表、制作と批評の眼差しの交点を提示しています。

この3年間の蓄積をもとに、関連記事・評に相互リンクを貼り、縦横無尽の網を張り巡らすことが可能となり、「響応」「照応」を可視化できるようになりました。

アクセス解析データによりそれを読み取ることができ、印刷媒体にはないウェブ媒体の特性が徐々に浮き彫りになってきております。

今後も、その特性を発揮する一方、「数値」至上主義に陥ることなく、また時々刻々更新に追われる消費情報でなく、読み捨てされない「価値」を追求してゆきたいと考えます。

さて、本誌2018年の活動につきまして、ここにご報告いたします。

2018年アクセス解析データ、年間企画賞、レギュラー執筆陣自選ベストレビュー&エッセイ、記事一覧のほか、創刊3周年特別企画「忘れがたい音楽体験」(レギュラー執筆陣)を収録。

また、創刊以来の『Back Stage』『五線紙のパンセ』のご寄稿文と本誌評・記事をセットにしたリストを作成いたしました。新たな回路、響応、照応の具体的な一つの形と存じます。

お目通しいただければ幸いです。

今後とも変わらぬご助力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2019年1月23日

Mercure des Arts 編集長
丘山万里子